

「家族皆からの金メダルを贈ります」

普段は冗談が好きな明るい夫でしたが、柔道のことになれば様子が一变。眼差しは厳しさを増し、些細なことにも妥協を許さなかった姿には、勝負の世界に長く身を置いてきた男性の迫力が満ちていたものです。そうして心技体を磨いた甲斐あって、日本を代表するあるいは世界の猛者を相手にする大会への出場が何度も叶ったこと。更には、未来を担う若者を大勢育てられたこと。そして、あらゆる機会を通して良き縁を数多く結べたこと。足跡の輝きを偲べば、還暦も迎えずに世を去ったとはいえ、その人生は生きた歳月以上に色濃い実りあるものだったと改めて思います。夫は家族にとって、空気や水そのものでした。当たり前のように守ってくれる、そして誰も代わりにはない存在でした。この先を思えば心許なくてなりませんが、思い出の中の笑顔や言葉に勇気をもらいながら、残された皆で励んでいきます。

夫 齊藤 仁は、平成二十七年一月二十日、五十四歳にて生涯を終えました。生前ひとかたならぬご厚情を賜りました皆様へ、深く感謝申し上げます。本日はご参会いただき、誠にありがとうございます。略儀ながら書状をもつて厚く御礼申し上げます。

平成二十七年三月十五日 齊藤 仁 お別れの会

喪主 齊藤 三恵子

長男 齊藤 一郎

次男 齊藤 立

親族一同

尚本日は何かと混雑に取り紛れ行き届きの段あしからず
ご容赦下さいますようお願い申し上げます

齊藤 仁 お別れの会

ご参会御礼